

ART EXHIBITION 2007

# REARITY OF LIFE AND DEATH / HIROSHIMA

HITOKUWADA TORU SCULPTURE WORKS

## 《ヒロシマのピエタ》

— 鋤田徹彫刻展

2007(平成19)年11月23日(祝)～12月16日(日)

【月～金】9:00-17:00 【土/日/祝】11:00-17:00 会期中無休

《入場無料》

HIROSHIMA CITY HONKAWA ELEMENTARY SCHOOL PEACE MUSEUM  
広島市立本川小学校 平和資料館(被爆建物)地下室

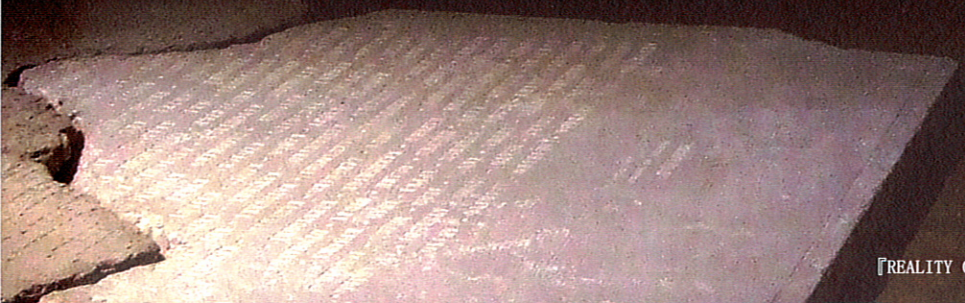
広島市中区本川町1-5-39

\*本展は、関係者の深いご理解と多大なるご協力によって開催されるものです。

見学される方は、校内における教育・学習の妨げにならないようにご注意ください。また、学校関係者の指示に従ってください。



(平和資料館地下室・焼けこげた配電盤)



『REALITY OF FAMILY』(部分)

【お問い合わせ】

広島大学大学院 教育学研究科 造形芸術教育学講座 彫刻研究室

TEL/FAX (082) 424-7141

e-mail thitoku@hiroshima-u.ac.jp

HP URL <http://home.hiroshima-u.ac.jp/thitoku/index.html>



## 《ヒロシマのピエタ》 一 鍛田徹彫刻展

2007(平成19)年11月23日(祝)～12月16日(日)

【月～金】9:00-17:00【土/日/祝】11:00-17:00 会期中無休

《入場無料》

広島市立本川小学校 平和資料館(被爆建物)地下室 広島市中区本川町1-5-39  
HIROSHIMA CITY HONKAWA ELEMENTARY SCHOOL PEACE MUSEUM 1-5-39 Honkawa-cho, Naka-ku, Hiroshima 730-0802 Japan

## 「本川小学校 平和資料館」について

本川小学校は、昭和20年(1945)8月6日の原子爆弾投下の際、爆心地にもっとも近い学校として大きな被害を受けました。校舎は外部を残して全焼、壊滅し、校長先生ほか10名の教職員と約400名の子どもの尊い生命が一瞬のうちに奪われました。この「平和資料館」は昭和3年(1928)に広島で初めて建てられた鉄筋3階建ての校舎の一部ですが、原爆の被害を受けた状態をそのまま残し被爆の「証」として保存することにしました。「展示室」には、被害のようすを写した写真ははじめ、被爆した遺物などを展示しています。資料の一つ一つには、多くの人々の悲しみや願いが秘められています。これらの資料から、平和の大切さと人命の尊さを学んでいただきたいと思います。(パンフレットからの引用)



(写真は参考作品)

「生」や「死」をテーマにした芸術は、古来より美術・音楽・文学・舞踊・演劇など様々な形で表現されてきました。人が生きている限り、このテーマは普遍性を持ち、今後もずっと表現され続けることでしょう。その時代、時代に生きた人々がこれらの問題をどう捉え、どう考えていたかを芸術作品から読み取ることは、当時の考え方を知ることになるだけでなく、今、生きている私たちにも多くの示唆を与えてくれます。

本展は、「REARITY OF LIFE AND DEATH《ヒロシマのピエタ》(\*)」と題された彫刻の展覧会です。「なぜ生きるのか」「どう生きるのか」といった哲学的な問題は、(意識しているかどうかは別として)常に私たちのすぐそばにあります。しかし昨今の痛ましい事件は、命の重みとはまるで逆のベクトルで頻繁に起こっています。現代ほど、この当たり前の問いがゆらいでいる時代もないのではないのでしょうか。

この度、出品される彫刻作品はそのほとんどが粘土で形を作り、石膏で型をとる工程を経ますが、どれも自らの身体を使わなければ成立し得ないもので、現代のコンピューター時代に全く逆行する究極のアナログと言ってもよいものです。しかし、自分の身体あるいは五感を使って作品制作するということは、それ自身が「生きている実感」とつながるものであり、その結果として完成した作品も「生命感」を感じさせるものでありたいと常々考えています。

広島には、原爆ドームや旧日本銀行広島支店など、いわゆる「被爆建物」が現在も残されています。また平和公園内の平和記念資料館の展示物も現代に生きる我々に戦争の悲惨さや平和の大切さを訴えかけてきます。しかし戦後60年が過ぎ、それらの記憶や思いは時の流れと共に風化してしまうのではないかと、という懸念があるのも事実です。

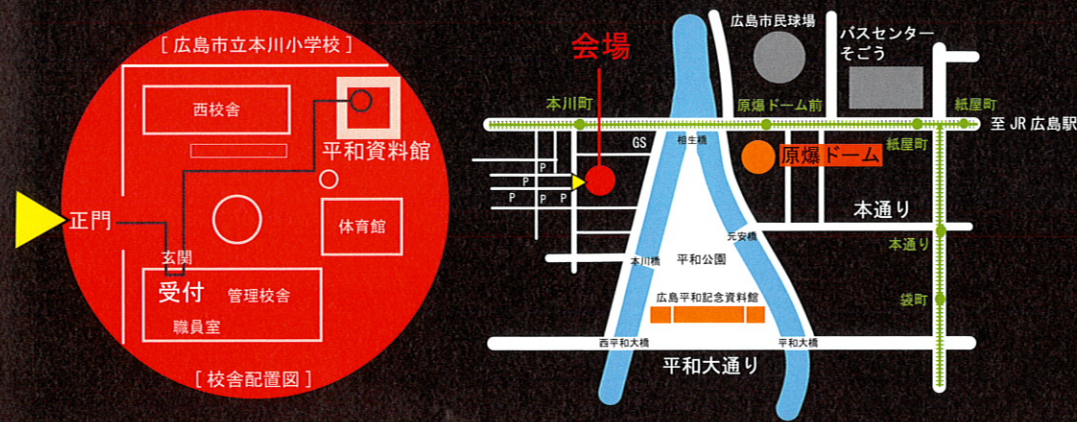
この度、関係者のご理解とご協力をいただき、被爆建物の一つである広島市立本川小学校「平和資料館」をアートの展覧会場として、初めてご提供いただくことができました。この平和資料館は、1945(昭和20)年8月6日の原爆投下により多くの児童、教職員が亡くなった、という歴史的事実からその建物自体に既に深い意味と貴重な価値があります。近年、日本でも美術館やギャラリー以外の場所で美術作品を発表する例は増えていますが、このように従来の建築物にアート作品を関連付けることで、新たな意味や価値を提示することは、社会におけるアートの役割を考える上でも大変興味深いものです。

本展は、今、まさに「生きている」皆さんが会場を訪れて下さることで、はじめて完結すると言っても過言ではありません。この展覧会が、何気ない日常の中にこそ大切なものが潜んでいる、ということ思い出すきっかけになれば幸いです。

より多くの皆様のご来場をお待ちしております。

(\*)「ピエタ」: Pietà (イタリア語で「慈悲」「哀悼」を表す言葉)

一 鍛田 徹



## 《会場へのアクセス》

## 【JR 広島駅より】

市内電車「②広電宮島口行」または「⑥江波行」、  
「本川町」下車徒歩1分

【原爆ドームより】徒歩5分(約300m)

\* 駐車場はありません。公共交通機関または近くの有料駐車場をご利用下さい。

\* 平日にご来場の際は、必ず管理校舎・玄関で受付をお済ませ下さい。

\* 土・日・祝は、直接平和資料館にお越し下さい。

## 【お問い合わせ】

広島大学大学院 教育学研究科 造形芸術教育学講座 彫刻研究室 TEL/FAX (082) 424-7141

e-mail thitoku@hiroshima-u.ac.jp ホームページ <http://home.hiroshima-u.ac.jp/thitoku/index.html>

